

謹賀新年

日本工業大学

NIPPON INSTITUTE OF TECHNOLOGY

通信

第138号



編集・発行

日本工業大学

広報課

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1

☎(0480) 34-4111 (代)

http://www.nit.ac.jp

平成18年（2006年）1月1日発行

年頭の辞

これからの時代に 必要なもの



学長 柳澤 章

2006年、明けましておめでとうござい
ます。学生諸君、教職員そして大学関係者の
皆様は、新しい年をどのように迎えられるた
りましょうか。

さて、昨年を振り返れば、ご存知のよう
に、大学の「7つの工房」によるカリッ
ジマイスターの養成・体験的美工学教育
が、文部科学省の「特色ある大学教育支援
プログラム」に採択されました。この工
房教育を本学の教育の特長とすべく、本
年はさらに充実のために努力していきま
す。

PCなどによるシミュレーションなど、
仮想の体験だけで終わるのではなく、実物
を手にとって作業をすること、そして限
られた専門分野だけを受け持つのではな
く、企画を立てることから完成まで、すべ
ての工程に関わっていく中から学ぶ。こ
うした点が「特色ある」ゆえんで、学内
で日々「体験する美工学教育」が行われ
ることを目標としています。

また、昨年は日本工業大学専門職大
学院がスタートした年でもありました。

様々な専門職大学院が開設される今日
にあつて、本学園においては、とくに中
小企業の方に焦点を当てた点に、本学
園の意志が表明されています。生産現場
でのつくりの日常

携わっている方々を対象に最新の技術、理
論を学ぶ機会を設けるとともに、マネジ
メントの能力を高めていただくことを主
眼にした教育を行っています。

学部でのカリッジマイスターの養成と、
専門職大学院での学びというのは、対
象者は異なりますが、エンジニアが習得
すべきことを、2つの方向からアプロ
ーチしたものといえるでしょう。エン
ジニアとは、実践と理論、具象と抽象を
往復しながら、より高いレベルへと進
んでいくことが求められます。

カリッジマイスターの特徴の1つは、目
手と鼻など五感が、非常に高い感度を持
ったセンサーであることを、学習者自身
が発見できることにあります。それら
が、問題を解決し、創造へと導く発端
となります。

工学においては、細分化された技術
単独では、解決できない問題が多くあ
ります。カリッジマイスターの経験によ
って技術をコーディネートする能力を
備えたエンジニアこそが、創造的な仕事
が可能になるのだ、という自覚につな
がっていくことを期待しています。そ
して何よりも、出来上がったときの喜
び。これがエンジニアにとっての極上
の報酬なのであります。

2006年は、どのような年になるの
でしょう。エンジニアをめざす諸君であ
れば、技術と産業の動向に注目をして
いただきたいと思います。もちろん国際
情勢も、であります。

中国の景気が日本の産業にどのような
影響を与えるのか、注目されます。諸
君が就職した際、勤務地が日本にな
るとは限らない時代です。社会人とな
ってから、もう少し勉強しておけばよ
かったと思うことの筆頭に上がるのが
語学です。そのことに心してござい
ます。

仮に国家と国家とが政治問題で摩擦
が生じる局面になっても、経済におい
てはすでに深く結びついており、分か
ち難くなっているのが現実です。日
本の製造業は、かねてより、生産コス
トを抑えるために拠点を海外に移転
し、空洞化が進行してきました。し
かし、マザーブランドは日本国内と
することを重視する企業が依然として
多いのも事実であります。

諸君が取り組む、機械、電気電子、
建築、システム、情報の各分野での
技術が、時代の動きとどのようにリン
クし、旬の技術となるのか、注視し
ていただきたいのであります。

学生諸君の今年の健闘を祈り、学
生の勉学を支える教職員そして大学
関係者の皆様のご健勝を祈念して、
年頭の挨拶とします。

特色GP採択後の展開

新たに6工房が追加され13工房に！

教育研究推進室長

波多野 純

2007年の学園創立100周年まで、
あと1年半。本学園では、年史の作
成や百年記念館の建設など、学内外
の方々の協力をいただき、さまざまな
記念事業を推進している。左は、無
限を表す「メビウスの環」をモチーフ
とした、100周年記念シンボルマー
ク。



●全国各地でのフォーラム（福岡会場）

本学の取組「7つの工房」によるカリ
ッジマイスターの養成・体験的美工学
教育が、文部科学省の「特色ある大
学教育支援プログラム」に採択され
た。多くの難関を突破して採択され
たのは、7月。以来、全国各地での
フォーラム、工房教育プログラ
ム（挑戦工房）の公募、第9回教育
改革推進室長

その根幹をなすのが、工房教育
である。7つの工房は、これまでの
実績を踏まえて、さらに前進する
ことが期待される。



●セグウェイを使った授業風景（サイエンス工房）

現在活動中の13の工房と責任者

7つの工房

- ・機械加工工房（酒井 茂紀）
- ・型技術工房（長坂 保美）
- ・エンジン製作工房（小倉 勝）
- ・ロボット製作工房（中里 祐一）
- ・2×4木造建築工房（波多野 純）
- ・ネットワーク構築工房（片山 茂友）
- ・ものづくり入門工房（宮澤 肇）

新規挑戦工房

<プライマリー工房>

- ・サイエンス工房（鈴木 一良）
- ・サステイナブルデザイン工房（成田 健一）

<エクセレント工房>

- ・航空機復元技術体験工房（渡辺 顕）
- ・福祉情報機器設計開発工房（片山 茂友）
- ・ITシステム工房（樺澤 康夫）
- ・電子創造工房（高橋 明遠）

フィニッシュへ向け健闘中

大学院技術経営研究科
研究科長 村川 正夫

早いもので、今月末を境に、今
秋学期から最後の冬学期へと移行
する。本大学院は1年制であること
からも、特徴が見受けられた。そ
れは、自分の具体的な業務改善
論文」の替わりに「特定課題研
究」なる科目を、修了要件として課
している。これは、解決したいと思
っている業務上の「特定の課題」を
学生が自主的に設定し、希望した
専任教員の指導のもと、秋学期、
冬学期の半年間でその解決策等につ
いて研究し、ビジネスレポートとし
てまとめ、最終試験として、その
成果を公開の場で発表する。

この中で、面白さから工学への道
を探るものであり、エクセレント工
房は、近い将来にカリッジマイスタ
ー工房として整備されること
が期待される。

これで全学科の学生が応募可能な
工房がそろった。10月27日に第9
回教育改革推進室長

専門職大学院オープンキャンパス

2月4日（土）13時30分から
シンポジウム、説明会、キャンパス
ツアー、授業見学等を予定してい
ます。
*参加ご希望の方は事前にお申し
込みください。
お申し込み先：日本工業大学 専門
職大学院
TEL：03-3511-7591 FAX：03-3511-7594
E-mail：mot@kanda.nit.ac.jp

2006年度 専門職大学院入試日程

	第2回募集	第3回募集
出願期間	平成17年12/12(月)～平成18年 1/21(土)	平成18年 1/30(月)～平成18年 2/22(水)
試験日	平成18年 1/29(日)	平成18年 2/26(日)
合格発表	平成18年 2/ 2(木)	平成18年 3/ 2(木)
入学手続締切日	平成18年 2/17(金)	平成18年 3/10(金)

日本工業大学 平成18年度入試日程

本学の取組が、文部科学省・平成17年度「特色ある教育支援プログラム」に採択されました

日本工業大学 工学部

●機械工学科 ●電気電子工学科 ●建築学科 ●システム工学科 ●情報工学科

	出願期間	試験日	試験内容	合格発表	入学手続締切
一般入試	1月6日～2月4日	2月12日 2月13日 2月14日 (受験日自由選択)	・数学Ⅰ、Ⅱ ・物理Ⅰ ・英語Ⅰ、Ⅱ、リーディング、 オーラル・コミュニケーションⅠ *上記のうちから任意の2科目を選択	2月21日	2月28日
社会人入試	1月6日～1月18日	2月13日	小論文及び面接	2月21日	2月28日
帰国子女入試	1月6日～2月4日	2月12日	書類審査及び面接	2月21日	2月28日
AO入試(第3期)	2月20日～2月25日	3月4日	面談、課題への取り組み	3月10日	3月17日
留学生	1月6日～2月4日	2月13日	面接	2月21日	2月28日

日本工業大学 大学院工学研究科 博士前期課程・博士後期課程
●機械工学専攻 ●電気工学専攻 ●建築学専攻 ●システム工学専攻 ●情報工学専攻

本学で先端技術研究の取り組みを

社会人大学院生 募集！（日本工業大学 社会人特別選抜）

■平成18年度 大学院 社会人特別選抜入試日程

	出願期間	試験日	試験内容	合格発表	入学手続締切
二次募集	2月14日～2月21日	2月28日	書類選考・面接	3月4日	3月10日

願書のご請求およびお問い合わせ先：教務部教務課 大学院入試係 TEL0480-33-7507（直通）

願書のご請求およびお問い合わせ先

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1 日本工業大学教務部 入試室

☎0120-250-267 TEL：0480-33-7676（直通）

URL：http://www.nit.ac.jp/ E-mail：nyu-shi@nit.ac.jp

全国から196チームが参加

第9回スターリングテクノロジー開催

今年も11月18日(土)本学で開催予定



●上：人間乗車クラスで優勝した「NAC岐阜」
下左：宙返り耐久クラス、下右：本学から参加の沼田君と原教授

低公害で熱効率の高い夢のエンジンとされる「スターリングエンジン」の自作品で、性能とアイデアを競う「第9回スターリングテクノロジー」が本学を会場に11月19日(土)開催された。

今回は、前回と少し趣向が変わり、「クーラークラス」が新設されるとともに、車両競技に「宙返り耐久クラス」と出場者を小中学生に限定した「ヤングクラス」が加わった。全国から小・中・高・専門学校、大学、社会人の196チームが参加し、前回より約40チーム増加した。

本学からは、システム工学科・原研究室からクーラークラスと人間乗車クラスに出場し、人間乗車クラスで奨励賞金賞を受賞した。受賞チーム「日工大」の代表・沼田誠君(システム工学科4年・原研究室・越谷総合技術高校出身)は、「今年の秋から3人のチームで取り組み、先輩の残した技術を改良すると同時に、車両を全く新しく設計し、部品一つひとつを作っていました。全部品が完成したのが昨夜で、今朝組み立てたのですが、思った様に走らなかったの、エンジンの出力を高めるなどの改良を続けたい」と語ってくれた。

今年も11月18日(土)に本学で開催する予定である。

●工業技術博物館●

「時計用小型工作機械の歴史」の特別展を開催



●左から松野館長、セイコー(株)村野社長、セイコー時計資料館小西館長

工業技術博物館では、平成17年度特別展として『時計用小型工作機械の歴史』を、平成17年11月4日から11月19日を会期とし、当博物館後援会との協賛で開催した。また今回は、セイコー(株)、セイコーインスツル(株)社、セイコーエプソン(株)、セイコー時計資料館の後援により、充実した展示が出来たことを感謝

している。今回の特別展のメインは、セイコー時計資料館から借用した、昭和初期・中期に機械式腕時計の部品製作に使われた小型工作機械等の展示で、これらにより当時の時計製作技術を紹介した。展示では、時計を構成する機械部品を「歯車」・「軸」・「ねじ」・「地板」・「ばね」の4つに分類して、それら

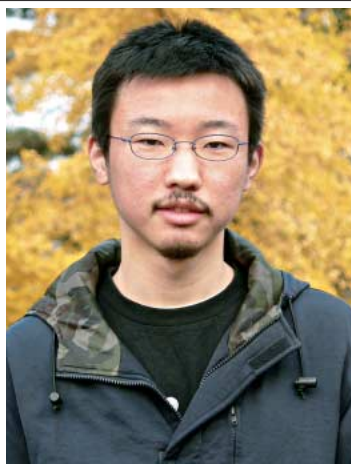
の部品と工作機械を関連づけて見せるようにした。さらに、一部の工作機械は電動機と組み合わせ、刃具(フライスカッター)を取り付けた主軸を回転させて動作展示を行った。また、後援団体からは、最近の時計に採用されているムーブメントや解説用のパネル、C/G等も借用して最新技術の紹介に務めた。特に、時計の構造を説明するために、本

学付属東京工業高等学校・生徒の自主製作による掛時計を展示したところ、その格取得のため、平日は3時間、休日は10時間の勉強をした。近年、電験の出題傾向も、世の中のIT化に伴い大きく変化している。これは、日本に建設される大型プラント・超高層ビルなどの近代化によって、電子化・情報化されたことが関係している。1995年以降は、電験でも大幅に電子系・情報系の問題が取り込まれ、幅広い分野から出題されている。



電気電子工学科4年に在籍する秋元達也君が、電気主任技術者試験(以下、電験)第二種に合格したのは、平成15年の時だ。彼が合格した平成15年の受験者数は約1万人で、合格者数はわずかに480名。合格率4.4%という難易度の高い試験に、若く19歳で合格した。

この電気主任技術者というのは、発電所や工場、ビルなど(事業用電気工作物)の工事から維持、運用に関する保安・監督を行うことができる。彼が取得した第二種というのは、17万ボルト未満の範囲の電圧を取り扱える。ちなみに、日本工業大学は6000ボルトの電圧の供給を受けている。



秋元達也 君

電気電子工学科4年
(埼玉県立春日部工業高等学校出身)

17個目の資格取得へ挑戦中

このジュニアマイスターのつもりで2級ボイラー技士の資格を取ったのが、ゴールだ。は、ご存知の方持ちと、もっと高度な知識を身につけたいという相反する気持ちがあったからだ。しかし、知識を身につけるなら今しかないという進路を決断する。

現在、彼は電験第一種の資格取得に向けて勉強中だ。来春からは、設備全般を行う企業へ就職が決まっているが、社会人になれば大学時代に比べ自分の時間は激減するだろう。限られた時間をどう使って目標達成するか。彼の挑戦は続く。

親会では、参加者が久保田氏に熱心に質問をしている様子が印象的であった。最も身近で関心の高い「時計」を対象とし、最新技術も含めた展示を行ったことと、今回の特別展・特別講演会は、非常に大きな成功を収めたと自負している。(学芸員・講師 丹治明)



●手の平に乗せた時計用小型工作機械

学生自治会中央執行委員会委員長就任あいさつ

学生自治会への理解を深め仲間達と大学を盛り上げていきたい

情報工学科3年 開澤将希
(富山県立魚津工業高等学校出身)



たものでした。入学当初を振り返ってみると、希望と不安で胸が一杯だったことを思い出します。

私が中央執行委員会に入ってから、歴代委員長の下で多くの仲間と呼べる先輩や後輩と出会い、その仲間と一緒に大きなことを成し遂げた後の喜びや達成感など、実りある多くのことを経験してきました。これからは「多くの仲間達と共に1年間頑張っていこう」という決意、この先どうなるのかという不安、「学生自治会をもっと良いものにしていく」という希望が入り混じったもので、入学当初と同じような気持ちです。

中央執行委員会委員長就任にあたり考えていることは、皆さんに学生自治会とはどういうものなのかをよく知ってもらおうということです。そのためには学生自治会員の仲間のつながりを強くし、イベントを今まで以上に盛り上げていくことを思っています。また、学生自治会がどういふものか分かって、意見・要望などを言えるようになり、一緒に大学を盛り上げていくことができれば、皆さんと共によりよい大学生活が過ごせるのではないかと思います。

最後に、学生自治会には皆さんの協力なしに活動していくのは困難だと思います。皆さんの学生生活にどこまで貢献できるか分かりませんが、より良いものにするために、今後のご理解とご協力をいただきます。よろしくお願い致します。

「花」をテーマに盛り上げた3日間

第37回若杉祭(11月4日・5日・6日)開催される

今年も11月4日から6日の3日間にわたって第37回若杉祭が開催された。今年のテーマは、「百花齊放(花が華へ咲き誇れ)」。

今年も11月4日から6日の3日間にわたって第37回若杉祭が開催された。今年のテーマは、「百花齊放(花が華へ咲き誇れ)」。

今年も11月4日から6日の3日間にわたって第37回若杉祭が開催された。今年のテーマは、「百花齊放(花が華へ咲き誇れ)」。

今年も11月4日から6日の3日間にわたって第37回若杉祭が開催された。今年のテーマは、「百花齊放(花が華へ咲き誇れ)」。

今年も11月4日から6日の3日間にわたって第37回若杉祭が開催された。今年のテーマは、「百花齊放(花が華へ咲き誇れ)」。

今年も11月4日から6日の3日間にわたって第37回若杉祭が開催された。今年のテーマは、「百花齊放(花が華へ咲き誇れ)」。

今年も11月4日から6日の3日間にわたって第37回若杉祭が開催された。今年のテーマは、「百花齊放(花が華へ咲き誇れ)」。

今年も11月4日から6日の3日間にわたって第37回若杉祭が開催された。今年のテーマは、「百花齊放(花が華へ咲き誇れ)」。

今年も11月4日から6日の3日間にわたって第37回若杉祭が開催された。今年のテーマは、「百花齊放(花が華へ咲き誇れ)」。

今年も11月4日から6日の3日間にわたって第37回若杉祭が開催された。今年のテーマは、「百花齊放(花が華へ咲き誇れ)」。

今年も11月4日から6日の3日間にわたって第37回若杉祭が開催された。今年のテーマは、「百花齊放(花が華へ咲き誇れ)」。

今年も11月4日から6日の3日間にわたって第37回若杉祭が開催された。今年のテーマは、「百花齊放(花が華へ咲き誇れ)」。

今年も11月4日から6日の3日間にわたって第37回若杉祭が開催された。今年のテーマは、「百花齊放(花が華へ咲き誇れ)」。

今年も11月4日から6日の3日間にわたって第37回若杉祭が開催された。今年のテーマは、「百花齊放(花が華へ咲き誇れ)」。

●上左：建築コンペ表彰式、上中：大食い大会、上右：ホームカミングデーで学内見学
下：ホームカミングデーで全員参加の記念撮影





●左から、小室匠君、小川真之介君、泉俊之君

電気電子工学科渡辺康夫教授は、このほど(社)電子情報通信学会からフェローの称号を授与された。この称号は、当学会への



電子情報通信学会から 渡辺康夫教授にフェローの称号

貢献が大きく、かつ学問・技術または関連する事業に關して功績が認められる正会員に対して授与される。フェロー選出制度は平成12年から始まったもので、今年で6回目。

渡辺教授は、慶応義塾大学工学部電気工学科を卒業後、昭和37年から平成7年4月まで防衛庁に勤務し、組んでいる。本技術は、例

システム工学専攻の3人が 日本機械学会 学生賞受賞

9月2・3日に日本機械学会関東支部ブロック合同(イシヨシ賞)が設けられて開催され、約300名が参加し、計171件の講演が行われた。本講演会には

学生賞(ベストプレゼンテーション賞)が設けられており、5名の学生が受賞し、工業高校出身、「吸着プレキ型空気圧駆動管内口ポット」の2名が、本学専攻2年、行田工業高校出身

「空気圧アクチュエータを用いた管内走行ロボットの(分岐管への対応と摩擦ブレーキ機構の検討)」、③泉俊之君(同専攻2年、本学付属東京工業高校出身)、「気液相変化マイクロアクチュエータを駆動源に用いた鉄による生体の切断特性」

全部システム工学科加藤重雄研究室所属で、今迄に無快挙である。受賞者の氏名と受賞テーマは次の通り。

①小室匠君(本学大学院システム工学専攻1年、下館工業高校出身)、「吸着プレキ型空気圧駆動管内口ポット」の2名が、本学専攻2年、行田工業高校出身

「空気圧アクチュエータを用いた管内走行ロボットの(分岐管への対応と摩擦ブレーキ機構の検討)」、③泉俊之君(同専攻2年、本学付属東京工業高校出身)、「気液相変化マイクロアクチュエータを駆動源に用いた鉄による生体の切断特性」

ISO-5年度 環境目標の達成状況 (2004年10月～2005年9月) ～ISO-6年度の活動に向けて～

ISO-5年度は、教職員・学内関連会社・学生が一体となった環境マネジメント活動により、環境目標14項目中12項目で目標を達成した(下表参照)。

ISO-6年度には、その成果を継続、発展させるとともに、さらに、環境における社会的責任を認識し、環境教育・研究の一層の進展を掲げ、目標達成に向けて活動を推進していく。

以下に、平成17年10月からスタートしたISO-6年度の活動の一端を紹介する。



●若杉祭で公開した緑のダム実験装置

■かわさき市民アカデミー「エネルギーと公害」講座受講者の施設見学(10/20) 約80名の参加者からは専門的な質問も多く、市民の環境意識の高さを実感。

■宮代町環境保全会主催「本学共催「環境セミナー」開催(10/15) 町民約20名が参加。佐藤茂夫教授による講演、環境施設の見学を実施。榊原・宮代町長、町議会議員等来賓多数。

■「化学物質取扱管理講習会」(化学物質管理検討部会主催) (11/22) 学生含め約80名が受講。『化学物質の取り扱いにおける安全指針ハンドブック』を解説。

■「第1回・日本工業大学学生環境推進委員会が若杉祭に参加」

ISO-5年度 環境目標の達成状況/2004年10月～2005年9月

項目	目標	主要実績	評価
1 環境関連科目の充実	授業を通して学生の環境意識の向上を図る	環境関連科目45科目を通じ、延べ7,760名に実施(前年度比2,150名増加)	○
2 環境共生に関する研究の進展	・研究成果の環境マネジメント活動への反映 ・研究の進展と成果を共同研究に結びつける ・講演論文を学会等で発表し、国内外で認知させる	環境関連研究の推進(「年次要覧」参照)「環境分野研究奨励助成金」採択研究の推進NITEC等を通じた共同研究、ヒートアイランド研究	○
3 環境関連情報の発信と啓発	講演会、公開講座、シンポジウムなどを計画、開催し、環境共生意識の啓発・普及を図る	環境特別講演会(7回)、「2005NEW環境展」出展、N.I.T.エコロジープレスNO.5発行、環境団体での講演、ホームページの充実	○
4 EMS教育の推進	・教職員及び学生の環境意識の向上を図る ・教職員の内部環境監査員養成セミナー受講率45%以上	・教育訓練、講習会の実施、外部研修会への参加 ・48% (修了者114名)、学生の修了者は通算159名	○
5 学生EMSとの連携	EMSの環境管理活動を企画・実践する学生環境推進委員会への支援	学園祭への参加、講演会、救命講習会、リサイクルショップの開催、Kids ISOへの参加	○
6 体験的環境教育の推進(キャンパスのエコ・ミュージアム化の推進)	環境施設、研究成果等が環境へ及ぼす影響が目に見えるキャンパスを創造し、体感による環境意識の向上、環境教育を推進する	対象施設の整備、説明板の設置(6研究・施設)	○
7 電力使用量の削減	予想使用量の1%削減	予想使用量を1.1%増加	×
8 ガス使用量の削減	予想使用量の1%削減	予想使用量を3.2%削減	○
9 上水使用量の削減	予想使用量の1%削減	予想使用量を2.2%削減	○
10 紙使用量の削減	予想使用量の2%削減	予想使用量を2.1%削減	○
11 廃棄物の削減・適正管理	予想排出量の2%減量化、一般廃棄物の資源化率60%以上	予想排出量を3.4%増加、資源化率53.5%	×
12 緑地整備・保全	長期計画に基づく整備・保全	学園創立100周年に向けたランドデザインの検討、緑地の維持、整備等	○
13 グリーン調達の積極的な推進	グリーン調達率の向上(関連会社からの購入品調達率45%以上)	グリーン調達率54.6%(金額ベース)	○
14 化学物質・廃液の適正管理	安全性向上に向けての問題点の抽出	講習会、保有管理量の調査実施、化学物質取扱い指針の作成	○

議における論文発表 ◆鈴木敏正教授(システム工学科)／出張先「フランス」(10/23)／目的「フランス国立科学研究所における研究打合せ及び分子線エビタキシー成長トレーニング」◆古閑伸裕教授(機械工学科)／出張先「タイ」(11/15)／目的「塑性加工工具への硬質膜コーティングに関するセミナー」◆渡部修一教授(システム工学科)／出張先「タイ」(11/15)／目的「塑性加工工具への硬質膜コーティングに関するセミナー」◆谷澤茂教授(電気電子工学科)／出張先「米国」(11/5)／目的「第31回米国電気電子学会産業電子部門国際会議における論文発表」◆星野坦之教授(システム工学科)／出張先「中国」(11/6)／目的「第2回O.A.設備消耗品の生産技術・市場供給論壇会における講演等」◆矢部正行教授(情報工学科)／出張先「ミャンマー」(11/8)／目的「アジア太平洋情報通信技術シンポジウム参加及び論文発表」◆伴雅人助教授(システム工学科)／出張先「台湾」(11/9)／目的「南台科技大学主催ナサイエンス・テクノロジー国際シンポジウムにおける研究発表」◆渡辺勝彦教授(建築工学科)／出張先「台湾」(11/9)／目的「中国回国際工業タイヤモンド会

あけましておめでとうございます。新しい年が皆さんにとって実り多き素晴らしい一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

さて、皆さんはテレビ埼玉の「市町村30秒CM」をご存じでしょうか。県内の市町村が、それぞれの見どころや名物などを独自のCMを制作しPRするもので、3年前から行われています。参加作品でコンテストを行い、優秀作品は年間を通じてCMが実際に放送されます。

このCMは、市民の身近な交通機関である町内循環バスが、昨年の作品を紹介するというもので、親しみやすいクリエイティブ調に仕立ててあります。プロの作品のような完成度はありませんが、かわいらしいミニチュアバスが、粘土細工の街並みを走り回る映像は、どなたにも楽しんでいただけたと思います。皆さんも是非、この30秒CM「町内循環バスで行こう」をご覧ください、宮代の良さを再発見してみてください。

(宮代町総務政策課職員K)

「新年明けましておめでとう。本年は戊午。インターネットで調べてみると、戊午の人は義理人情に厚く、十二支の中では最も誠実さにあふれており、いったん心を許した相手には一生変わらぬ友情を持ち続け、自分からは決して裏切ることがなく、とても忠誠心が強い」とのこと。

▼平成18(2006)年の年頭にあたり、この一年間をイメージしてみたいことを提案します。目標に掲げ実現していきたいこと。例えば、勉強・クラブ・友達・家族・考え方・性格・遊び等々などでもいいと思います。様々な制約がある中ですが、培えるものは無限です。時間が漫然と過ぎていくことに恐怖を感じて下さい。心を開いて、すべてに好奇心を持ち、経験を重ねることは人生を充実させます。そして、人間として成長していくことに自覚的になってもらいたい。私の反省を込めて強く思います。すばらしい一年になりますようにお祈りします。(下)

本学ウェブページがリニューアル!

本学ウェブページの一部がリニューアルされた。今回の改訂では、まずトップページのレイアウトを再構築し、メニュー表示の整理や検索窓の設置、タイムリーな話題をバナー形式にするなど、各情報へのアクセス方法を大幅に改善。ほかにも、新規ページ追加や写真の差し替えなど、最新の情報を網羅している。この機会に、身近で便利な情報源として大いに活用してもらいたい。

URLは
<http://www.nit.ac.jp/>



ISO 9001

宮代養護学校高等部から 本学へ5日間の体験実習

11月7日から11日まで、埼玉県立宮代養護学校高等部2年生の佐藤謙太君が、「産業現場における実習」の一環として、本学の経理課で体験実習を行った。

これは養護学校の生徒に「就職や入所等に必要な職業的態度、技能及び生活習慣を身につけさせるとともに、見られた。佐藤君にとっても、本学にとっても貴重な経験であった。

11月7日から11日まで、埼玉県立宮代養護学校高等部2年生の佐藤謙太君が、「産業現場における実習」の一環として、本学の経理課で体験実習を行った。

これは養護学校の生徒に「就職や入所等に必要な職業的態度、技能及び生活習慣を身につけさせるとともに、見られた。佐藤君にとっても、本学にとっても貴重な経験であった。

11月7日から11日まで、埼玉県立宮代養護学校高等部2年生の佐藤謙太君が、「産業現場における実習」の一環として、本学の経理課で体験実習を行った。

これは養護学校の生徒に「就職や入所等に必要な職業的態度、技能及び生活習慣を身につけさせるとともに、見られた。佐藤君にとっても、本学にとっても貴重な経験であった。

11月7日から11日まで、埼玉県立宮代養護学校高等部2年生の佐藤謙太君が、「産業現場における実習」の一環として、本学の経理課で体験実習を行った。

これは養護学校の生徒に「就職や入所等に必要な職業的態度、技能及び生活習慣を身につけさせるとともに、見られた。佐藤君にとっても、本学にとっても貴重な経験であった。

11月7日から11日まで、埼玉県立宮代養護学校高等部2年生の佐藤謙太君が、「産業現場における実習」の一環として、本学の経理課で体験実習を行った。

これは養護学校の生徒に「就職や入所等に必要な職業的態度、技能及び生活習慣を身につけさせるとともに、見られた。佐藤君にとっても、本学にとっても貴重な経験であった。

編集後記

新年明けましておめでとう。本年は戊午。インターネットで調べてみると、戊午の人は義理人情に厚く、十二支の中では最も誠実さにあふれており、いったん心を許した相手には一生変わらぬ友情を持ち続け、自分からは決して裏切ることがなく、とても忠誠心が強い」とのこと。